

〔直売用切り花の物日出荷品目の拡大と短茎多収技術〕

ストックの物日出荷に向けた播種時期の検討

小幡彩夏・岡澤立夫

(園芸技術科)

【要約】ストックは播種時期を選ぶことによって、十分な切花長を確保出来ることから、秋の彼岸時期に収穫することが可能であり、物日需要期の出荷品目として有望である。

【目的】

現在、盆や彼岸などの物日需要期はキクなどの定番品目が集中的に販売され、直売所の花のバリエーションが乏しくなっている。そこで、本来は晩秋～春にかけて出荷されているストックについて夏～秋の物日需要期(東京盆：7月13日～7月16日、盆：8月13日～8月16日、秋の彼岸：9月20日～9月26日)の出荷品目として栽培可能であるか評価する。

【方法】

供試植物は、白色系ストック「アイアンホワイト、ファミリーホワイト、カルテットホワイト」を用いた。播種は2014年5月19日、6月2日、6月16日の計3回とし、八重鑑別は2回行った。パイプハウス内の幅50cmの畝にフラワーネット12cm×4マスを設置し、八重鑑別苗を6月13日、6月27日、7月7日に定植した。基肥は三要素成分量が20kg/10a、バーク堆肥を2000kg/10aになるように施用した。栽培期間中は、遮光ネット(白：遮光率20%)を展張した。1区16株とし、スプレータイプのストックは図1の状態の時に摘心をした。1輪咲いた日を開花日、5輪以上咲いた時点で品種ごとに一斉に収穫調査を行った。

【成果の概要】

1. ストックの栽培適温は20℃程度といわれているが、ハウス内の平均気温は7月～8月後半にかけては30℃前後と高く推移し、8月後半からは徐々に気温が下がり9月に入ってから25℃前後で推移した(図2)。
2. 「アイアンホワイト、カルテットホワイト」は、播種日5月19日、6月16日では物日間に収穫できなかった(表1)。播種日6月2日では盆期間付近に開花しているが収穫適期は盆より遅れた。「ファミリーホワイト」は、播種日5月19日、6月2日では物日間に収穫できなかったが、播種日6月16日では秋の彼岸期間に収穫が可能であった。
3. 「アイアンホワイト、ファミリーホワイト」は播種時期が遅いほど切花長が長く、播種日6月16日ではカジュアルフラワーとして十分な長さ(50cm程度)となった(表2)。また、茎径、切花新鮮重、花房長も同様に大きくなった。一方で、「カルテットホワイト」は播種時期の遅れに伴い切花長、茎径、切花新鮮重は大きくなったが、カジュアルフラワーとして十分な長さにはならなかった。
4. まとめ:「ファミリーホワイト」は6月16日の播種で、切花長が50cmを超え、秋の彼岸時期に栽培することが可能であった。他の品種についても播種時期によって秋の物日需要期に出荷できることが示唆されたため、今後も物日出荷に向けた適切な播種時期を検討する。



図1 摘心時の着蕾の様子

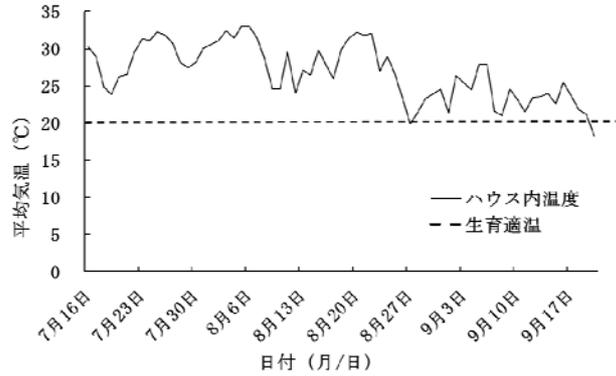
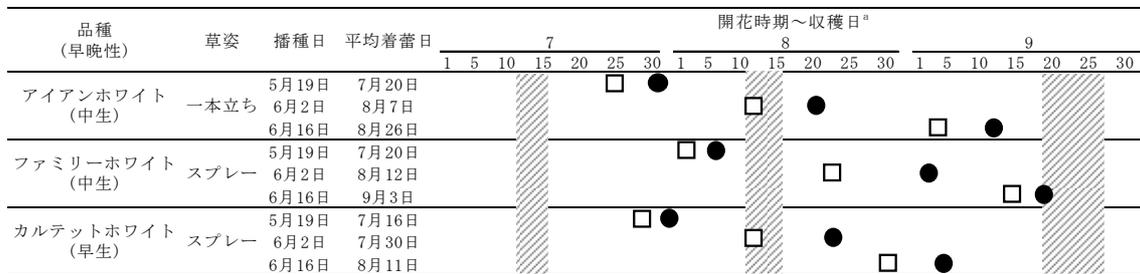


図2 ハウス内平均気温の推移およびストック栽培適温

表1 播種日の違いが開花時期に与える影響



a) □：開花日, ●：収穫調査日, 網掛け範囲は物日需要期間を示す

表2 品種と播種日の違いが切花品質に与える影響

品種名	播種日	切花長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	側枝数 (本)	花房長 (cm)	輪数 (輪)	切花新鮮重 (g)
アイアンホワイト	5月19日	38.8a	8.1a	37.1a	0.4a	10.8b	—	69.6a
	6月2日	40.2a	8.3a	50.8b	1.0a	7.6a	8.8a	97.0b
	6月16日	52.2b	11.6b	57.5b	0.0a	14.6c	10.8a	186.8c
ファミリーホワイト	5月19日	34.4a	8.2a	65.8a	8.2b	5.9a	—	101.3a
	6月2日	45.8b	10.0ab	54.6a	5.2a	10.6b	36.0b	194.2b
	6月16日	50.6c	11.1b	48.8a	7.2ab	7.8ab	19.0a	176.0b
カルテットホワイト	5月19日	32.3a	8.4a	54.0a	6.4a	6.2a	—	79.3a
	6月2日	30.6a	7.9a	51.7a	6.2a	6.4a	23.2a	94.7b
	6月16日	36.1b	9.8b	49.7a	7.0a	6.8a	25.8a	112.3b

同一列内の異なる文字間には Tukey-Kramer 法により 1%水準で有意差がある。

—：調査せず

□：カジュアルフラワーとして十分な長さ (50cm程度) に達したもの